

閉 会 式 8月17日(金) 11:40~12:00

- 1 開 式 の こ と ば
- 2 挨 拶 全国農業高等学校長協会 東北支部長  
次期開催県 宮城県農業高等学校長
- 3 閉 式 の こ と ば

## 東 北 支 部 長 挨 拶

岩手県立盛岡農業高等学校長  
岩 淵 健一

まずはじめに、この大会を支えていただきましたご来賓の方々に感謝申し上げます。大変ありがとうございました。また、大会会場として、企画・運営・調整に携わっていただきました大和田校長先生をはじめ、福島県の役員の先生方、また、事務局として尽力いただきました福島県立福島明成高等学校、福島県立会津農林高等学校の先生方には、大変お世話になりました。新しい形での開催ということで、例年以上の苦労があったかと思えます。本当にありがとうございました。また、各分科会におきましては、お忙しい中研究発表の準備を進めていただいた先生方、進行・運営に携わっていただきました先生方、大変お疲れ様でした。重ねて感謝申し上げます。

さて、ご参加いただきました皆様におかれましては、良き研修・交流の機会となる2日間だったのではないかと思います。新しい情報や考え方、工夫された実践報告にふれ、同じ思いを共有する他県の先生方とのふれあいの中で、明日からの教員生活をより充実させるような多くの刺激を得られたのではないのでしょうか。また、一方では、GAP、HACCP、6次産業化、AIの発達など、それぞれのかかわりの中で、今後取り組むべき課題の多さ、難しさ、複雑さに、少なからず不安を感じられた面もあったのではないかと思います。

私は昨年、岩手県の高教研農業部会研究大会の挨拶の中で、シンギュラリティにふれました。人間の尊厳を保持することが危ぶまれるような時代に、生きていく今の高校生たち。しかし、我々が原点に戻って見直し、農業教育の重要性を改めて再認識していいのではないかと、という話をしました。何が起こるか分からない厳しい時代であることを受け止め、それに対応していく強い心、小さな命を大切にはぐくんでいく思い、自分自身も他者も大切にしていく、そのようなことを私たちは今日の前で、生徒たちが吸収し成長していく姿を目の当たりにし、それを助けている。これが、農業教育の素晴らしさ、そしてそこで学んでいく生徒たちの素晴らしさなのだろうと思っています。

東京で、千階建てのビルで暮らす人は、そのとき何を仕事にしているのでしょうか。彼らが食べる食べ物は何でしょうか。それを作る人は誰なのでしょう。今日の講話を聞きながら、そんなこと

を考えていました。

本当に科学技術としてできることと、それをしているのか、ということは別問題であるのではないかと思います。

先ほど申しあげました、命を大切にはぐくむ、そして自分も他者も大切にす強い心と優しい心を持った、私たちの大切な生徒が、30歳・40歳を迎えるとき、彼らが社会を支える時代において、「変な社会にしてはダメだよ」と、真っ当な心で叫んでくれる生徒たちを、今育てているのではないかと思います。未来の社会を人間としてあるべき方向に進めてくれるのは農業教育、その中で育っていく今の子供たちなのではないかと思っております。

皆様方にはそのような生徒を育てていくという、大きな、そしてやりがいのある使命があるかと思っております。今を見つめ、少し先のことを考え、変えるべきことは変え、続けていくことは続けながら、それぞれの学校において今大会で得られたものを実践しながら、皆様に課せられた大きな期待に応えていただきますようお願いしたいと思っております。

今後とも各校におきましてご活躍いただきますよう期待申し上げ、大会の閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。

## 次期開催県挨拶

宮城県農業高等学校  
校長 後藤 武徳

みなさんこんにちは。宮城県農業高等学校の後藤と申します。今年4月に宮城県農業高等学校に赴任しまして、いろいろな引き継ぎの話の中で、来年度の東北農教研は、お盆中の8月15、16日に予定しているという話があり、それはダメでしょうという話しから理事会等を経て、いろいろなお意見を頂き、全国連の日程等も考慮しまして、来年度は、開会式で榎支部長がおっしゃったとおり、8月8、9日に実施することになりました。場所は仙台市です。8月8日は、七夕祭の最終日ですので是非とも伊達の文化を感じて頂きたいと思います。

また、今回本校の教頭等が視察でお世話になっています。というのは、先ほど話があったように今回から東北農教研と校長会が一緒になって、新たなシステムになると、また、聞くところによると4年後には全国連の研究大会が再編されて、この東北農教研の中にその役割が組み込まれるという予定もあります。つまり、我々の研究協議会がこれからどのような方向でやっていくのかというのは、この4、5年の間に、多くの先生の意見を聞きながら、構築していかなければならないということになると思います。

今回福島県では、65名以上の先生がこの大会の運営に当たっていただいています。来年度宮城県としては、もう一度検証しながら、次の農教研、あるいは校長会にスムーズにつなげるような大会を開催していきたいと考えております。そのためには、先生方のその間のいろいろな意見が大切になると思いますので、どしどし宮城県の方に要望等を出して頂ければと思います。

本当に2日間、有意義な研修を行うことができました。福島県の先生方には深く感謝申し上げます。来年度宮城県でお待ちしています。またよろしくお願ひします。